俳諧埋木

全

中村俊定文庫
文庫 18
75

誹諧埋木目録

季吟撰

誹諧之事

六義

發句之切字

本歌之發句

俱束三付而八句名所之発

祝云爰恵之舞

手尓於葉

本音ヲ以テ
皮肉骨ヲ以テ 跳楷
ヲ以テ 草行ノ如シ
有文乃ち作文の勾作
二五三四又二四三
親勾疎勾
而序乱也流
中躰

宮城県立図書館

宮城県立図書館

跳諧とは本来義物ニ滑書シ 跳諧者
滑稽也 滑ハ乱ル也 稽 調不屈也 史記滑
稽傳 考物云 滑稽 不窮竭若滑稽 注 酒也
傳云
大史公曰 天道恢々 豈不大乎 諫言 衛中亦
可以解紛 優 倡 多 常以 笑 諷諫 優
諧 若如 嘆 云 法 合 於大道 序 于 乾 滑稽 多
爭 部 舎人 發言 陳辯 雖 不合 大道 終 合 人
主 和悅 是 皆 滑稽之 類也

村俊定文庫

俳諧の多いはごとくこれまたあて字人
備よ戯云といふてあやまりなり
と業よ滑稽のことをかくいふなり
たとへば成道着也又俳諧い非道にして
妙義を達するうちあり故に唯滑稽そ
の外しかと無利口あるもの此言語史とと水
よりひろ字也或い狂云あて妙義とあるもの
武中又云よこあ詞よりあるべしれるべし
又云俳い者非也亜俳者可用俳字とも　雜説
古今指きとい用俳字先に富也

思案よりてに指きとあらい後指きあり
八重山り物云或説曰俳諧有指し二俳諧二俳諧
三俳諧四滑稽五諧謔イニ誹ー六謎字七空戯
八鄙諺九狂言イニ杜云
思案よ或義俳諧い狂をんとしに狂云也
俳諧い狂狂云ーてん也俳諧い行
字かくこはのこと也俳諧いんわーいふきこ
ヤしかれとりて狂ーる也滑稽い面白
かーこーよりー也ちんぬ興義物謎字いか
ちくのやーいる也空戯いひとをーた

きれて実をくさ[illegible]歌いやーたてとと
きてうてこそうてうや。ねこい偏あ[illegible]きめう
よいてるや。相こいてる流よりて火とも水
ときけていひおせるやしこ
熊野井殿の古今集の説よい。祇園しこと世界に
いわまこうやこのる詞をとりてとこうて公集の心い
更よきこうす。さてこうひこうぬ風情をよめうとこい
ひこうこいやとこの中のまーされこ寄のわらこうまを
ときこ[illegible]こうこと[illegible]
宗祇こ祇い南尾切。信胡皆切。和也合也

はきこいの乃事。祇流の俗を物といふとこく
人のあこあまといふ。ふこうこいひこうせこうこ
こそ。歌流よ不用こく。歌流の心い祇道。歌道祇
道道。歌四流ここ云。ままよりふいつ。史記。傳
偽ここそれよ祇こう
無業よ公祇道の心いこ記こうせ奥義物
とひこきこうや。八雲市抄。熊野井殿の心
説の心をの心くいここうあうひめうとこ
ものまを持まこうこ。説るれここよこ
偽こ心的へ　又書頭九の口傳の今書の

よ[illegible]ん

六義のまき[illegible]の[illegible]やまとことの歌よりいにしへ今
集[illegible]作りと歌拾遺門のまり流よりの六義[illegible]
根ぢい毛詩[illegible]ことはゆきまりよりくくもと拾
見[illegible]てゆきまりとの[illegible]ひとりんこころやのもひとわ
連歌よいん敬信邪[illegible]たことむてさのいの[illegible]に
[illegible]ゆきまりまつきゆきまりきまりまつきゆきまりまりとまりの
[illegible]ゆきまりよ俳諧の句[illegible]よりねく
今山流[illegible]よ[illegible]ひとり先師の[illegible]ゆ
[illegible]と[illegible]称決よ歌句とくんあてよそれ

[illegible]

[illegible]

一風　八雲御抄よ風[illegible]云いろ[illegible]へ[illegible]物
と物よ[illegible]へよめる[illegible]ゆきまりといりくそのん
をさ[illegible]とそ[illegible]　宗拾遺門の
御流よい風といふとの[illegible]ゆきまりとの[illegible]ゆ
よせあ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ
風の寄をのくあ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ
とあれ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ
ひさ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ
の説よいく毛詩云と風化下風刺と

但云風化風刺皆謂譬喻不行云也七業
同書云風い風ぬ風やとふこゝろむやそふこゝろ云い給と
あらつのふいたゝびて義とさとゝゝすちや数よ
風とそ人うゝとゝ云。家綱古今乃物云毛詞
乃六義よい様く義ありて。或絵詞といひ。
或い祥用とゝ云ゝ何ゝゝ云ゝ世わ風ふて奥と
奥をゝをあらつ生相をゝ〻 年朝よ異也
又義通をゝ流もあらとゝ生頼ゝん敬
傍新をゝ人寄乃ゝんゝて 名いをく新いう色
の部云ゝゝ白とゝ月て二条左関板と附白

ゝ人。猫揚ゝ生ゝ物よそ人て白乃ん
とあらつすと風乃白なゝ人ゝとゝ風乃白。
宋松東宗邦をんよ物ひ風よんそ人以
義也ゝをゝゝゝゝ流ゝ生ゝゝ人ゝ白
ゝ流。桃詞乃白ゝもなゝゝゝゝん
よめなゝゝ流乃ゝゝゝゝ世ゝ柳髪 長久九
長白乃中にていゝ流白宗猫の四跡とん物一時
ゝゝゝゝのいゝくとあやゝれ梅乃花
ゝゝ物ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

二　賤　八雲乃まし物よ賤いかさ人寸也宗拙
黄門まし流よ賤い寸人乃ゆ寸ら也。秀人
乃大事也。仏と一遍よしゝめて偏執か
さ紙秀人と云へし。清輔云　正義云賤之
言鋪也。也鋪陳。今之敷物也。今案賤
鋪也。ちくしいこと成ハくとも也。乃ん紙
ハ　てぷ　ちよいつ之文をのとかそ乃ろを
ゆくゝ寸ゆ。数よ賤とかそへうこしふなり
宗祇云わらまとゝちよかそへつふたふ
ふ乃ゆ寸賤い寸也。雅之よい鋪へ正ふ之へ

うつゆ之ゆ之量いかさ人いつん同之。雅も章
乃ゆ之同りやゆ之ゆ。作り。心数伝新乃ま寸
ゆ乃ゆよい拍しゝんゝくゝわてかよつゝ
白ゆ乃人しとゆ乃ゆ乃ひゆ宗邦ゆゝ乃ろを
一句んよゆゝめさろ義之とつろい彼黄門乃
山刻しかろひ作りゆ。氏宗邦乃川白ゆを
ゝ新ちゆ新ゆ寸。新よそめ
ゆとちゝゆ寸ふ之とつろ白と川ゝ祢
ゆ新ゆわよゝ乃んゝを之ゝへて洲諧
ゝゆ作ゝゝ

三

比

萩すゝき菊まてや　長頭丸

山乃京や一見さくらかいなりに　李吟

八雲抄には物によそへ云比はなをしへ奇也物に
よそへるや定家卿の文にはなにかへ奇とも
よむへきよりやうにかなへてり詩補云　正義云
見今之失不敢斥言取比類以言之　今案
比はなをしてる也物によそへ物かなや致に比をなを
らへ寄と云蓮心院殿の古今の序書に比は
物ともりて物によそへるを云也世俗にあやを
くらふるを云同心也君の音乃つりて

なしときうつよゐくへ身乃かりこれなりよせて
よむとうかすくへ奇と云てん致候歌乃心白には
下のから比りはよしいろ定ねかると云よろれ
て秋乃塵を塵よ何くりあすてたえるを
こうろへしと云本ましく活つり宗祇乃物物よ
よ物によそへ寄によせて幸山は袖の事さ
ゐうらすちうかと云句を出何ら称活しいる
彼完案の法は後よ同比義と二句乃義とて
めくるを云義比といふひ月をさそひて
氷をひ花をなしてなとふひぬくらかると

我俤はしのくるひとをたゝんとよめるひと
はるとや。俤借よい
月ゆゑ秋のくるかとうたがふ　長秋卿
くらひとの和尊之称や月日星　季吟
四　與　八雲云與いあるとゝ尊やゝ云古今よ
ゝ所よ同しやうにれ千とうさゆとゝ
ゝというり蓮ん院殿乃字云しゝゝ云
いゝゝ所よとこゝかうやあゝゝゝ云い
がゝしたゝゝ云いわゝうゝやなふいはれ云い
はやゝきゝ乃帝とゝ　とわふふくゝう

きあゝこれゝゝるゝゝゝ梅乃寺ゝゝゝゝ
ゝゝ云い意ゆゝ迷情ゝゝゝゝゝゝいひわ
ゝうゝてゝゝゝゝゝ物よゝゝゝてよめゝゝ定
西行與よ二行あゝゝ雲與節與ゝ雲與也
いゝゝ今乃ゝゝ意いとよゝゝ可也や
ゝゝ意いゝゝひゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ乃
須乃ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
清輔云　正義云見今ゝ英編於媚詩叙

吾古事ハ喩動く今業ハ真とは毛詩ハ
ものゝあはれとよめるものゝあはれとは云いられとりて毛
ハ真ハ詩ハ真ハ詩ハ真ハ詩ハ真ハ詩ハ真ハ詩ハ真ハ詩ハ
宣抵云風ハ詩ハ真ハ詩ハ真ハ詩ハ真ハ詩ハ真ハ詩ハ真ハ詩ハ
風いふくかゝれ真ハ詩ハ真ハ詩ハ真ハ詩ハ真ハ詩ハ真ハ詩ハ
わゝりハ真ハ詩ハ真ハ詩ハ真ハ詩ハ真ハ詩ハ真ハ詩ハ真ハ詩ハ
ひ出て懷ハ詩ハ真ハ詩ハ真ハ詩ハ真ハ詩ハ真ハ詩ハ真ハ詩ハ
わゝりふいりて詩ハ真ハ詩ハ真ハ詩ハ真ハ詩ハ真ハ詩ハ真ハ詩ハ
媚諂ハ詩ハ真ハ詩ハ真ハ詩ハ真ハ詩ハ真ハ詩ハ真ハ詩ハ真ハ詩ハ
ハるとゝ詩ハ真ハ詩ハ真ハ詩ハ真ハ詩ハ真ハ詩ハ真ハ詩ハ真ハ詩ハ

字と側声ハ詩ハ真ハ詩ハ真ハ詩ハ真ハ詩ハ真ハ詩ハ真ハ詩ハ
ハ起ハ詩ハ真ハ詩ハ真ハ詩ハ真ハ詩ハ真ハ詩ハ真ハ詩ハ
ものゝあはれ詩ハ真ハ詩ハ真ハ詩ハ真ハ詩ハ真ハ詩ハ真ハ詩ハ
ものゝあはれ詩ハ真ハ詩ハ真ハ詩ハ真ハ詩ハ真ハ詩ハ真ハ詩ハ
ものゝあはれ詩ハ真ハ詩ハ真ハ詩ハ真ハ詩ハ真ハ詩ハ真ハ詩ハ
ものゝあはれ詩ハ真ハ詩ハ真ハ詩ハ真ハ詩ハ真ハ詩ハ真ハ詩ハ
ものゝあはれ詩ハ真ハ詩ハ真ハ詩ハ真ハ詩ハ真ハ詩ハ真ハ詩ハ
ものゝあはれ詩ハ真ハ詩ハ真ハ詩ハ真ハ詩ハ真ハ詩ハ真ハ詩ハ
ものゝあはれ詩ハ真ハ詩ハ真ハ詩ハ真ハ詩ハ真ハ詩ハ真ハ詩ハ

偖あと

かりそめの秋風にのこしうれ　長嶺
とこそ思へしうへとあいの円侍ぶ　李吟
堂てうやしくとひ奇と云り。古七
雅　八雲よ云雅いとこと奇と云り。古七
もいとしのめ〳〵のいりてしきそ云や竟歌
云雅いとつまとすこをことうまあく
さく一編よ始しあとりといひすあり
雅よ二ゆわり〳〵よい言雅二よい意雅るわ
云雅と云いあと業よあるりてそいよる

事ものもやと云雅と云いんとあとくや
こるりまるく何よすることふせく。
活完ものもの云ものしこんと云
ゆ。まこと云とうやんこのくらと
ものこいるもん　ゆ言いんいるとく
ゆりて何いすこるこるひこり明とりよ
やのやの字と御りあらんの字いこうひ
こりぞれんるるへ文章や清輔云毛詩
云言天下こ事彰四方之風謂こ雅雅正
也。政有小大故こ小雅要有大雅要今業二

十一

雅いまさらにもやさしきものかなとうへとたゝへとゝとゝとゝぬるもの。故は雅とてこゝにゝる
字紙云雅い雅は雅よりはるかに雅なれば雅云
歌の名歌をかきつゞけるもの雅は雅なるべしくゝしく
ありのまゝにふるこゝろ歌信は雅の門なり。後撰も
花の秋よりは成よりはるかにこゝろをとゝまるべしたゝちに
はるかなる白やまのこゝろんとゝくしくいろ雅の
白やまのこゝろ雅はかすみのまとゝてこゝ
ゝにふる雪やこゝろいとゝ白いこゝろすゝきの露
ありけりやとゝれたるもの出くゝ夕月和るこゝ白

とゝ白つゆのこゝろ
風風もいてゝこゝろ月を見る人の年　長明
まゝくゝといまゝくゝ　むさし　季吟

六頌　八雲云頌はいとゝひ寄也。是は世をいわ
て神よりはじまる也。定家云頌は神の門
くゝんあるも頌なり。讃頌なりこゝをあ梨
いとゝ寄とゝもゝむるんあれば。よさしく
云歌云はゝ讃頌の寄とゝ。兵何を神の門
者くゝんあるゝ頌乃寄とゝ云云。故毛詩

序に云英藪法師と那宮に其成功而若神明
といへり先い六伸乃中の頌乃原乃文なり
清潔云 正義云頌とは云て誦也宮也今之法廣
以英之今案に頌い誦也稱讃之義也故ひい
かむるんも也故に頌といふことと云家抵云
頌い容也誦也宮い主者乃威德とかさとり
ものてかむるも誦いとひあらるへひろめて
かむるいも頌乃詩い宗廟にして誦して神に
まうすもの也世にふるめく神に用ることいる
ひんもしとい 仏教傳部乃伝り 花樹

みなもるむらとぶとこいとひきてかり
ひるひとるんるひるんるひ頌乃句も古とひ乃假名
序乃中伝に頌乃寺に神祇乃ひきへ
とものてり正中伝に法乃書入とる詞也
中いかりとれもて侯義とことんひもて
雖とも假者口伝あり 猛同中伝とひきく
正中乃ことと出るり伝りとるもあり
これも宗旨いもとんひと神に問ぐる故とて
神乃ものこと忘也代とのあさとる。と云句
とひまるとりこれ系抵黄門乃ひんに宗抵

法師の詩をもしあと叫ぶこゑやかんとて俳諧
あと宗鑑の頃の句ぶんをもうひかん
伝わまた代々れたる梅のきてくぶ　ちぶん
冥加あれ　者よあやめとあ　生　麦冷
長頃九六義の口傳よ云風い道とあらいさん
ちく抱とうりてひ〻ようまひちりて云也
詩いとのとうりてそれなりあるこゝをふせ
いふ也。與い抱とうりてそれなりく道の
ふとあ〻りて也。是風法與のひ〻きよ
ひくのいとうれくあるひめや。俳雅のう

つまい俳い抱法とあるこゝをあるつよいも
雅いすこゝをあやけるこゝはるをゝや。
頃いいもひて抑よやすも　宗祇法師云
六義の中よ雅と執とるもあり。西行
道とかゝるこゝりも周詩思無邪を用
ゐる也。畢竟式義を肝ひ〻蓮流のこゝ。
宗邦云花花海塚をうんていぶいわ云相祇
歌〻。まち秋のうけうよいぶき者物妻の理と
ゐるこゝ。辛と詠〻。春白と詠風俳法與
雅頃の六義とゝりて六道物過のり

ひとはなをふそう

愚案ずるに桃偉は欽定四庫全書に牡丹傳語あり
とゝ云し戯云られしとぞ云ふ世わさ
かわ々れしごろの俳諧さうん人のうち
ゆにはまうあこてんい作るまいをる
をあらめし異ちるまいいてら毛ちる
ゆはなをくゝふふ人ゑとうめて

歌白乃切字

かゝる　ちる花を追ふけくゆくあゝ入る
うらくをおりてらいる年乃くま

もゝ　二条よさくひんさてこの寺ねをうれ
かゝふくよりうにえられ月乃うか
なり　をわ山乃いちこさくゝなよ分わ
花桶をうにけ分わ嬉けくう
々わる　まゆくく友まよ月わおをめ乃る
む　世ふくうんやるれくやなさて
花をゝんいさやあこ乃ひわ雲
小西乃うゝふうひろむやとの乃む光
秋月をめかさ乃うちよ月乃か
わ乃世ちるとよけて乃ちるれ世

まし
天神ぞ梅は御ざる花ざかし
何かほしまう頭陀ぞくろ夜かなく
牢善そんひりつけ白かくまん
う
一葉よみくよわ年うらり乃壱
さまれ
庭よさく竹されは落葉もひるし山
かか
宗りがむ花よりくらぶ花乃霧
り
哥よきの雪もひらめくる寒乃そら
や
書く月をいつりよやかさかね哉
あをまあやとうふのうも夕顔さうり
淡門がいゑろんなまやゆかせてん

やい
野ろや花あらひさくくわ月
きくしや夕ふの嵐山わくまん
くもの来がるうとはやい岩つ下し
ゑい
ゆの酒山ともの夕ふ見ん乃咲くそ
そ
いをうこいよをふかとよそ数よなれ
まんりの花ぞ春乃をぬ何見
あり
かをう紀のもあくし夕ゑ八王子
いさ
くるとをいさをくゆひのつくし
いふ
うくふさく見うくいろふかくまれ
嵐
うくつ門も小町さくりやい世ぞうり

花竹氣なゝ雅ぬら

まつ水ハ毛とハ川こへちねハら色
里をくて川こゝるちの紫
かぶ縁切りてまけうちハなか小扇さわ
扇ハ合とてうるゝ花とこ川ちて扇
千年をハく七まつりまつ乃哉
花さうりそれへうろと全まよし秋山
とゝといひてよう川とゝの毛乃浪
をちや年乃おひとそよ姫ぬ小晦日
さうりまい忠ゝこ恵よ花乃あめ
色ちて太概とおけ絵りな紙さゝらひの

まよなへちけや

何次完乃こ洗台とれ切字ちとらく足
志ろしかゝし

下知

催くれれ七夕乃ひさとやへさとう
くれてみよう千すまゝ色乃緑白梅
まりこ猿な志つゝと咲乃花盛
ちわ語へこゝしいやくし十二神
様合かり色かゝていくろうちつし
いやめ合ちとうさけかくまん
ちさしれといひやこうれよまさ餅

せ　四十かゝりの世花乃ちは
め　めこゝろひ十三種を宗匠月
行わをくいうへくゝ千ゝ人ひゝてきれ
字よ月ひゝゝもまわり
ちゝさいのゝてゝるてゝこなむ花茲
ひとしわゝくいゝ籾のあゝるゝ花の色
と曲ゝ乃切字
うゝちさへえゝまゝるを花乃新
玄妙切　ゝそやゝ乃ゝ別ゝゝまわり
ゝゝを叫ゝ花やゝいゝくあゝるん

行こ乃白れゝるひゝと世乃ゝんゝとゝむゝゝゝ
口偽ゝゝゝ。神ゝん乃ゝゝるわゝてゝへ乃ゝゝ
めいゝゝこゝゝいゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝんゝゝゝさゝゝや。
大廻切　つ孫いす白ゝゝきゝゝも
あゝまわやせゝゝゝまゝりやゝゝゝゝ花乃茲
ゝゝゝいせゝゝ花乃茲ゝまゝゝゝ。
三段切
ゝゝいゝゝゝゝ庵のゝゝ麻茲ゝ花
三字切

とりて見よ何乃字もなし　梅乃花

二字切

山さくらやいはとゑ月との雲

三し乃まゝ

かしとかし　ぬかしとは既生乃しや

おかへし　ぬかへし　おかし　ぬかし

ぬかしは未来乃しや　此二つ乃しそれハ

切字ならずとあり　おかし

ぬかしぬといひ見未乃しにて切字に成

なるや。されはよく不乃ぬ乃ほめを乃句は

既生乃し。かれはうるさしやむやそいは未

未来乃し。かくゆるや

とりんぬ　ふ乃ぬのまゝ

ちり乃ふなりぬかしとんてせく

これ定まりく。おしなよありとりんぬといへ

るれともとりんぬといふやうれのぬ乃字ハ切字

ましさやしやりぞよみぬとおもひしきや

ふ乃ぬといはおくぬせぬならといふやうれて

みとこそやうくも不有きておくぬそ

よる去意と去てせぬとしらるれて不乃

字あかりふぬの字とふのぬとのひかり又
れるの河ゆるゝいとゝゝ色のゝうりてとん
ぬるとふのぬのをみまわ消ぬふれぬる
へけせてねけめれば又字よりわつてゝゝ
のまゝれ くまきるゝやゝくゝえの月の
ちゝの紙あちゝゝゝ

春まゝとけぬ深山のゆく
もふのぬや

春ゝやゝけぬわの名月
もとりぬや。

年寄の歌句

名ゝれゝまめ名や月の新名
名ゝれゝいゝゝゝんもゝゝゝれ
もふへいありやゝやゝ
やゝとへてするや花のゝゝ開
ゝとて花のゝゝゝる水いちりく
ふゝやくゝゝとのゝん
右百韻年寄のゝゝ系とわゝぬ物よゝゝ
なてよゝゝとく類ゝるへし
ゝゝゝれやゝゝりの尾のゝゝん

わすれぬるこの山ぶしのおのがさとりおのがみち
くしゃうをねがひしりうを祈ん

花いろもこと葉も世世のかをれる菓
うへしうへし秋ゆたかきやさうさうん花とも
ちりぬ祈をうへうまめや

右二句本寺よういそひくいなり

花ちるるかもやまもちるや月とんわけも
たちさい月とそてこれうこのはをも
人の花しるるをの
見やけそ法花経とは一覚菓

かをこそもとそもとは世世のかをれる菓なり
はりけを水くそ行人へてをは
山二句本寺精舎なり

卯の花いろもこと葉の月てら
うの花のこのもれもこと葉の月てら
うの祈をはりしよりはりうり
とそなへしたちやしてこれ新さし
やへむすこ
人をそ月てら祈秋いこと葉くなり

右の句本寺のんなるをうへてをを

竹斎とつれだちてかけまはる也と云ひしや
こぼるゝや伽羅の焼がら毒の花
此句色の匂ひいやうつゝさる花よりかゝる
ことなる梨よりかゝれ
なりけるにこゝしかれどものあしかれ
難波ならこゝしかれあしのかりのさをあはれそ
この文するにてよしや
右竹斎のんとよりて風情とかゝり
哥をかれよいさくさあの申しかれ
今こんとて云ひしもかりといのちのふくまりは

冬の月しさくさあの申し
鶴のやまらとめぐるゝ花の影
ある里色まさそらあさうか露とそてもら
なれけるそう云ひしゝ哥
此二句竹斎のことそとよれるけれ也
右此竹斎とりまする云れしハ井蛙抄愚問
賢注なとのんをかこの世よなそらく
云るし仰る閑にしにあくらぬまへとれ
めれと純学の人のつゝよあるさらんかわい
中くらん出けら旅仰しとよそ古詩本語

あしたは世俗のことわざすく白髭仙人
を笑ふ式部卿宮ごろんさんとてよりて
詩のあるを
春のくれとはいふもうれひなりわが
行春は南枝十程
山ぢわくらの花やまづ風をまちん
玉風桃李花開日
月のけしきをたれかあやまちん
不忘つ前月月是
中夜の春日

あはれなる紙をばうちもちなんし
伊勢物語よりもはるかにいるかりてけり
うのようのようにわらはやまと
かとやまとやわりあまじのこと物語
天照大神天岩戸よりうれしくなりぬ時
六合しこの風ぶくなりよ天鈿女命歌
舞をもつてはいたまくかるてなれ
月の神めてをひてうつくしひ世よりあらはれ
日の神紀古語拾遺にあり
世俗のことわざくせ白

文月やかくこくもしく七夕乃夜
よろこくとしや孫年に来りなむ
子と何景色しいかいやのかろく
発句ともつる発句いふくしわりに多くい
いまもて物まて作れたこち第三にふくとは
しめ作うとしとなや
にく人数長歌及許し試筆
しを句先年付す作っこれらの第三ぞて
也いひもすしきも中もく作とこち第三
寛代いやさしくすまね何らきて

とわりとにし蒙を心何らされしや作としと
されさりのてにや何っをやてやりてなそ
まね太刀なりんとなをし作しや
木俳諧連歌乃発句切字ハ先師長頭丸
に作し申出来乃新拾とらてわかなし
なるし作る亦也物字によろくて人なるひ
きこゆへて成るものなるへし

脇第三両八句之事

宗柾云脇ハ発句によくつきひて対句ととらく
又客主乃わひらひ作るへし。第三ハ嫌るとまく

して一句まよそひわるくしこれ
結巴法服乃云脇い教句ようしそひく句うと
うけうく物乃名ぞなかてを一字うてうめい
なわてよどもうているうしめぬ也。人云
和寺乃教句乃脇いあ教句乃いひのうしうう
初成りく寺乃まつかつうやうまはせ
一ふうてうてとうしうとうひくせんい
脇乃句の和うさよいあうしいるも。脇ようおそ
ぶつのやうあり。一よいあひうい付二よいうう
うへ付ようよいうひ付四よいん付大よううう

うあわせ。芸は九云うきよ射付むうひいも
大ふのうきうふのうあまあり
恵業ようひうむ付しい教句乃ん法ふきく
うくうやうよ付松ぐせうとうの彼ん付
うつうう打うへ付ようのううようひうも。
射付いあいうの付うしひしく。大ふ乃うた
うちうひ付乃まううへうも
結巴法服ひううううしうす脇乃句ようあう
あうへう教うう教句ようと根うてうひうう
物うれう。一句乃中ようと松句ううあう合ひうう

花と実ばかりくはゝと。後句に五色乃拙句をれ
ゝ人事さらまよいらぬまゝ先もとよりの
はひいたらりゝ
又云弟三い脇乃句まゝくつさいとらもこけ
ちゝと弟とゝ句ゝいゝゝきい弟三れな
ゝゝらゝ
又云弟三い相伴乃人乃ゝしこけゝくく優
ゝと希事ゝくゝゝた振乃義い初ゝ乃人々
学ゝゝゝ風伴とゝゝ弟三ゝゝゝゝ句作り
丁紙ゝ無別四八句十句とい者ゝゝ者ゝゝ

なゝ相ゝ弟四ゝ句ゝゝ脇乃句ゝゝ小こけてやとく
ゝ弟ゝゝ弟四ゝ句ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝいゝゝ丁紙ゝ又句ゝい弟三乃句ゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝ相法てゝゝ韵ゝゝゝ
ゝ稱ゝ丁紙ゝたゝゝいゝゝゝゝゝゝゝ
七句ゝい弟四ゝ句ゝゝゝゝゝゝ風景風情
ゝゝゝゝ丁ゝ紙ゝ八句ゝい何ゝ法ゝゝゝ紙ゝ
何ゝゝゝゝゝゝゝゝ幽玄体とゝく弟ゝ八
句ゝゝゝゝゝゝゝ九句ゝいゝゝゝ法ゝゝゝゝ
物ゝゝゝゝ者ゝ句乃てゝゝゝゝゝゝゝ

下らけんかきるうう懐紙うわのまうこれ白
うけうきてうまてんやうまなこん
慈業よ布まこ寄乃ううひみく祖又寄乃
広法眼ようけ仏ゆ物物よきうこれさ
乃わもしさこれうこれうこれ稀くゆうや。
故生仏九徘徊ようう現さても物し
法ますすこわひとこ〜めうゆゆうゆう
うこれまこ代うこいこんこうひとすこし
てこのこ人ゆうめうまのこいわこんこ
そのこうひうこうあまこ未体乃清整

連所よまこりわてこまこいこい何乃作
法をわうぬをのこやこうこうこうこ
年こわここうこいひわこんこいこ口れし
うこんこここなまこくこ定めここてを。
まれまんこんこん何乃こうけこんここや
ここうこくこんゆめこんこうこうまこひと
まぬうこよひこ乃手けここゆうめ
紹巴法眼云爰神紙尺数懐四なこまこ
十三句めこんゆわうり
慈業よこれ口伝まこうれこうこしく

書わりてかうし
又云十一句めうりん花ちる雪也
開帋とうを付とうり開俳とあり
そうしのへうれ葉句よりはんりんて面とうり
句こうはそれ葉句うぐまぬ不かく紙
へし丈一句をかうしのものかくぶん
懐紙うりよい二句ろうちとんぐけやと
くうはれまうれまうようりかい句葉
いりそまかく一句仕んて連哥もれ
やうのう物かくぶいうまいう句春ぶも

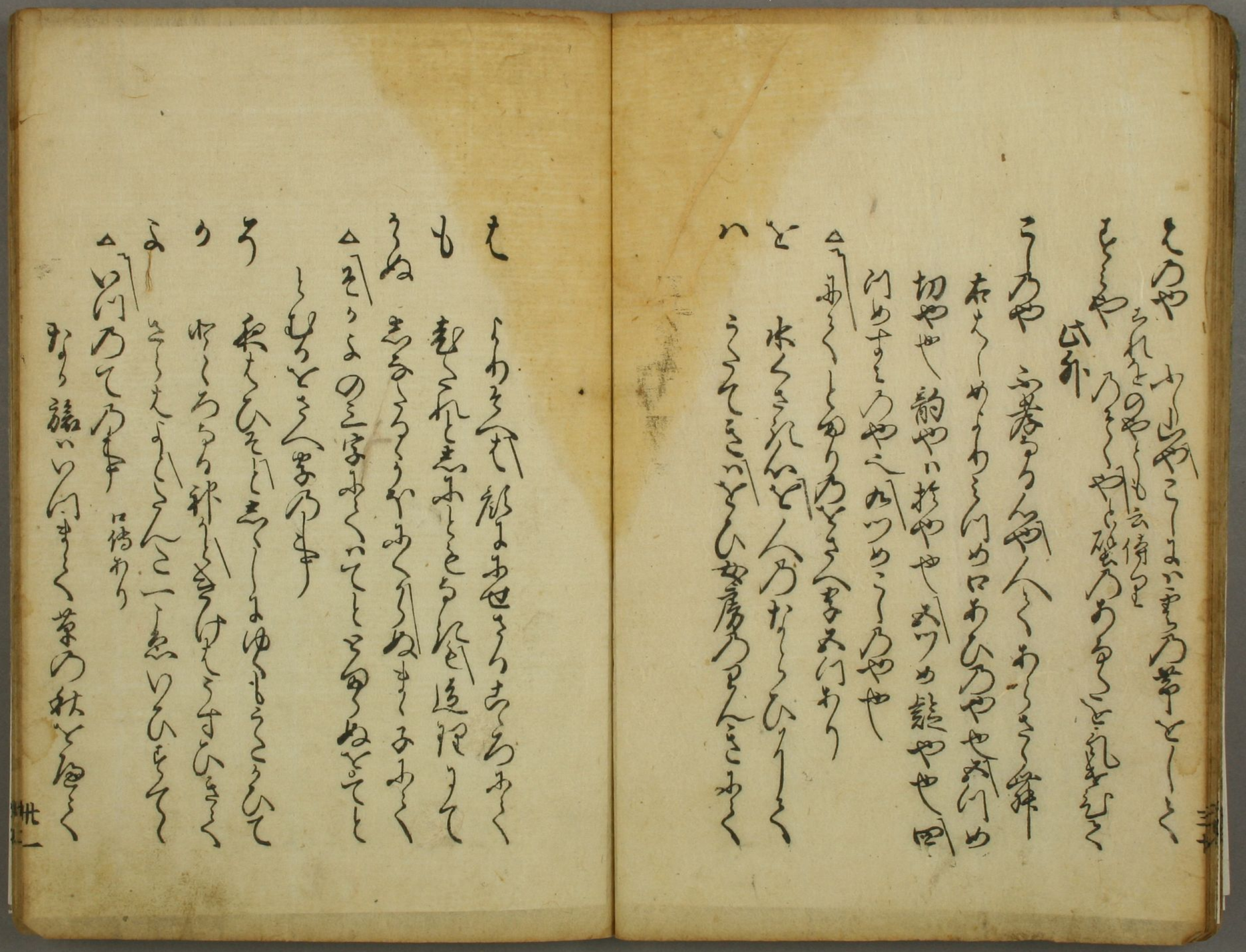
かうの句と初んかく祝ひひろ句毎よとく
まりくゆきやまと句と細しまうまやもも
ろんの句所要しうへ句脇井三乃句をに仕板
又云祝云乃附要句脇井三乃句をに仕板
乃ます。櫻花梅柳松竹花と紙花ひく
めくむ花色ひし木乃ゆう句葉ふう
木むの御むしく色ものれれの屋蔵
かうの野乃御むしく門道乃ゆきくあんや
うぬ墨くの行ひ弱さうとく世て
行ふ。又云祝義乃附要ハ代なををく張と

とさためかたし只去くくへうちすて花ともいへ
うせうち松といふ字をすて給ふ末ともいへす
らし夕霧夕暮雪消春海花落木葉落ハ
なかのすゝしき欲云ハいひ給ハぬ霞の方
のきはの月さ給ふかやのすゝのかく可然は
人云欲我乃附句ハ取てふしのこゝろあり
発句脇第三同前
宗祇云欲云の発句ハよるとおなしに脇の
くしめの花とは去てよしの道ありしかもの
うすきやうにきてもつゞきてもつらうるゝ也

入まきの句もよらまてさるへきめかりなき也
しきし文字なるにわかれすへて玉柳な
とハ何にてもへきや。玉やなきといふにと同
まハつゝや気ふかくよろしかるへきや
思案にあらのりまかせと親しよりて後にも
いろやまく続き言うもよしとか大めかへし
紹巴云名残のうらハなしも名きさ同前
と斧付せぬ物や。付句も前句とひかれなし
六の物よくいへてし付句ふかくやそくしや
ます切若乃へんゆかへし

無紫よりいいとまとくみとりく付
ろどもくさやしゆれて名残のうらま
てをこそ物ひさうさんやうとう
なしんしきのうまいうい連句より
をこしひろさ返ふくゆうめれつを付
らんてうてをまもれうぬりやぬ長頭丸を
さのこうのうあひしつさわして茶匂に
せんなんもやて一句とうさうんうめて
こしやりくたうんいあやうれをさうしそ
ゆうんを文をくあまわよめうきやう

うんをこうて布うれ物うれてこれあさ
しうこうひうこまんのうんえうんし
発句系之口傳
七ノやのもの
あのんのや　素やうんひうわいの物の年うま
切や　色のこや十のく十のうこめうん
拵や　あのんしうこあまんしはこひこや
結のや　きのをこや雑も聖ないうせめう茶
中のや　れ津しうはひこやうこのうこひそ
をとうこうこやうこいうや



誹諧なれハ只ありしまゝにいひぬく
やうみいはゞこのうれをおもてしらく
△下句乃てと申ものなり
人くるし歌人乃萩ハしらるまゝく
書よけれけしまわいし申候
下乃句にてと申ハさのこゝろひとえ
まもおもすとくのあるつかしハ
中よろしきとらへかしきりはわかく
つとにもいさよし家粮乃從るれも
とくく追代好まるまゝしとやおれ句ハ

大さかげさとくとふしりく
多とらくを長頭丸あとらびきまかあ
狩口傳あり
△月毎と申ス事
おのく月乃名のり毒きこゝろ
すりの匹精乃波よりくゝろ
こやけし柳色なの上すこゝろ
うさんのちくにむとうくける入ゆ
く文章乃付くるもあゆ
うちとこうかて縄とるふこゝろ

うくをけぬふ

誹二

む　ゆ　る

け　せ　て

ね　へ　め　れ

いろくいろなるさそ誰いくや
うらせまとらめ氏押字あく為也
△野さねらん
しるさんん稲ゆへまわとけあくらん
撰家ろうたろうんもとろうん
△一字さね二字さろう三字くろん四字
不同さまわう
一字さねさ代　押字なくてさろう
あくいろんせんうんあらや
二字さろう　芳白れやとうもくさめう

三字くろへさん
宗頼さケ月よ京ゝ行き
その家ゝ行ろ新也とれ
ばりさいよ云
よわくゝ供よも世めう萩
大水さんくさし むさもう
宗頼さ松ゝ爰ゝさ前白よ
風と波ゝ行ろ也ゝ　思案ニ
松よ風いろうゝ花と
爰よ浪い今の世めさいろん

四字不同

なりけるうらやましさん
うきと人白の仕ミやうま
うらへさそや

△治定のうらうらの事

花のうらうらの所をうらやまく
心うらくいてしとやうらやも人
あらそふうちを移すこひいていく
あらしてとしうらへし
皮宮殿八物物よりの切連寺しうらへ二白の
うらとるとさわらくうらうらあるとうとと

長以九とうへうらうら生歌乃白略く
世ーのそまうらうら乱うてうそうら
まわ紙ないしく書たうわ。おふうく
異彩通財うへうい玉名乃名ー。有名乃
名紙付しわうしう白やとう白てう。
連寺荷く
和うあうらいうやせうをまうん
あうへ行をうてわて蟻乃のうわう彩
けうくよくとい。前白の紙乃羽と書白の
しうようけうくけうるやとうや連寺ま

くろ松のかよわとく神さび
ふるゆきとあれのうらとう
是ともいろ〳〵なる
月ふる〳〵神よ深れゆんあこと
ゆつる山ふかのうちのもりすす
きせてあたしく当りの翁のさと
白のうらの初りしとりせうあこと
連句

ひんくもりて秋のうすく
書くるきくのやはのあやり

きいろ
うろとやをれ神　宴前
こあしをあかつきうちはら
かこねてよたしこの前の
南白のかうらけくいまるまれと
かへゆすきことたくいひせろ
しうや連句略く
桐のたくあきれいよくく寿乃玉
きはの寿ありやをしやもと
あうてよたこの前白よくやけこ

ありうてかうもんを歌
引よせたる桃偕
大こうはうもしらるもの失
古今集をめ度後撰よ筆紙をめ
人とらへ初よ筆又堀みしをまき
主又まこと苔ちゑして筆磨ひけとや
地又人とあふそのうを孫しらうゆ
あらうてよもとうんあく分ちうを
かうとやもとてく八字の分家とて
まあり

さへ引ふ分特引川徳引
是やこれうのんとうて分ちゆ
ちうとうめとうよ道向ちうしし
△すこうておもし
のひあうのうく垣こ花ありく
ちんをあうこ松陰弱ゆうく
こうのこくてよとうまま一白のうけ
こうちゆ和なれも寿こうちんよ
んちんあうてうをこうを逸をくそ
ちゆ今よ少年よこうこうてこれ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

皮

皮肉骨乃譬諭

[illegible]

肉

[illegible]

[illegible]

骨

[illegible]

真

真草行し譬諭

[illegible]

草

[illegible]

行

[illegible]月のくまなき
[illegible]月のいるよりはやくせく
宗祇云 [illegible]行けはあひうるを [illegible]といひ題
[illegible]とまりと [illegible]といひたてまつりあひうる
と行とうるとうるはやう
△有文乃白俗云文乃白俗はいまはまた
[illegible]くはと猿やかりうる
[illegible]白俗とうなもし
月とうるくはやかりうる
[illegible]一白うるとうるはやう

卜乃白 二五 三四 無雲といまはまた
[illegible]すいあるくるぬるるいや
二五三四とは
[illegible]
[illegible]
五二四三とは
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

こそさてよろしきやうにせさて約句也
さてく三四とよみさてよみ四三とよみ
さきよさきあてわ二文と又二といふ句よ
よろしくさりやしとて

一 哥連哥に疎句親句といふ事あり
親句とは詞のつゞきとゞしく疎句は
付合にきこえてゆるき也心敬僧都乃
連哥乃秀句に

氷乃よは浪うちらめ
さゆる夜の月乃峯の花すゝき

おもしろや今流るゝや
待居乃里のかこちを風にあて
冬と御わたらいふかと

桃とくらくそこえてわかれ
くろまちと思ひけふにまろ夕ぐれ

橋乃そこともうつりそそう
大嵐冬ゝ乃里よわかれまてく
心敬僧都疎句の秀句よ

ちしめともてともちぬ世中
ことろもしよむくいわる思ひなく

これやこの世にはなつかしき三条
いまの光のうちの色乃色
茶白乃姿しかとそとうて出ひとへ
んまくれなゐとのうつりて桃花
服うちやひろきをとせたくして
寄よい徒白丁秀寄ゆりと定家
ゆきうちとうん。桃花い光年ぢうとも
しして物うちきられたりや諸白の祈い
めとうちあんぢ白ぢんまうとや

歌よ篇序題曲流とまきあると連寄
ふとあうへしくくん歌信部云根今下乃
白よ曲乃んあうもよ白と篇序題よ色
でいひ詠をんしく上乃白よ曲乃んあうても
ををもうあ白と篇序題よいひうへを
とうんもいうひ
あうをうきて落くをゆけ
物くうひてよいあうき用いかをと
をぐうを道をとけいきいうをと
うんをうの中無白乃名のうて

此句末乃下の句は曲乃んありていひいめと
多ゆへは第句と篇序毛はよりくいひ
けく末句はゆりうるも
はるかなるこねたりわは如よりり
人くしひ水仏をしといたまく
えいの下きこいうへりや成ぬるん
ひさてしいうらるはいひちをは
此二句い末句は曲乃んありくいひあり
くしに故は下乃句は篇序毛はれて
末乃句いうもくいひちをうみん敬

俤如き歌いうかすは上乃句とりひのこて
下乃句はゆりすは乃句とりひたてけく
上句はいたせたこけつきはこうこうり
各こはいひたてるる句はは感情秀逸
なる句へしとのこあつり
是第は篇序毛曲流いこと乃又句の
作わこ句ちる人へ篇い人乃ぐり第は
いまここすこうとあるるへし序い
ト次なと級物とれまも毛ふ
もをといひはきこうなとの分句は

曲ハ一ちと二題をわかつ事すきなや流そ
いふ名紙にひ也するなるへしとかや
名とへも篇ハ物乃本末との外題也
序ハ其書乃序なや題ハ其書よ
出あらハ其本乃となやあるまゝを
ひとりくあらハ表する題目也典
をひとりくを川ふさよりなる文句也
儀ハよくいひ流まうるんすやむ致候郡
此名ツ乃作りさ名を連歌なも上下ある
句を一よ今合せるくんを均へしとや

此用ハいく以句じん題をあらまさ
歯とハいくまゝ物をかへしとそれ乃
言葉かなされも以も付けく
ゆくなもへいとあるへこれあるぬまさ
なれもまくんとてさおやもし

三十韻　思案よ十作乃中よりさむく乃
きままくあわてをへて三十作あへし
此作乃事枚よまろせり

第一
幽玄体
貧人とはかなき乃心まで知るそるし
後口
法りしそ小町をうしろむも世よ長流

行基体

六月十五日

[illegible]

廻国体

今乃世まてとゝめし秋農

七賢

[illegible]

第二 [illegible] 秋

[illegible]

[illegible] 体

[illegible]

六行乃[illegible]

横笛乃[illegible]

壹角体

[illegible]

石乃[illegible]

[illegible]

浦海体

[illegible]

第三 有心体

[illegible]

[illegible]

[illegible]

佛乃目と
物哀体
法いのちの世ひとへに世ひとえ
心用体
理世体

定家つたへ世拾民いとゝん祈乃ゆゑと異域の竟
舞音絶乃延喜天暦乃異を用時聖代乃

拾民体
拾叡と
玄拾体
定家つたへ一くまのゝうんと合て行人ゆゑめ
ゆゑ直よりきゝてもゝと面白きをもて
俗うゝ人うゝいとうゝ
あまのうゝもゝ知うゝいと苦しや
定家つたへ心ひれし字つゝとゝうゝ
宗匠羅体

[illegible]

二月乃枝の本張より水あるて　素乃法師

存直体

[illegible]

[illegible]乃よりあらやもたて拾てん　遍照

花簾体

日本乃もの口乃ひろさよ

大唐とこうよりてやのをぬん　宗淳法師

雲体

春の代とうの雲と仕くゝむ　[illegible]

[illegible]

竹体

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

撥撥体

[illegible]

写古体

[illegible]

第六面白体

[illegible]

一真体

[illegible]

糸曲体

[illegible]

第七濃体

[illegible]

[illegible]

[illegible] 教俊法師

第八見換体

[illegible]山の尾さはやかにむめん

[illegible]の松むしろ　雲

第九有一節体　[illegible]

[illegible]

第十抱恩体　[illegible]　宗盛

[illegible]

[illegible]

[illegible]

歌云い想樹。行年廻者し別名なり。歌云
しらいろ〳〵寄の中ま満ちて月と共に
よもすがら敬者の風よりあるよう風色しく
詞の外よ面新のうるいろ〳〵ん寄せ物云廻者
の梓しるしてこれよりて元文つやされりとそ
うひらく心敬僧都云者の人の歌云侍とん
ゆらと大やう〳〵の歌のうるとろうふうろう
古人の歌云とれていんと実用せし
りやわやの人の仏えろい姿のやさし
ろやしんの寄りしろいかをこれ

人をとうろうこれのくろうい法人のまもんを
松さもひろい一人のタ人しされた古人の言上の
歌云侍とのうわ〳〵も武法いの明るの侍
さんとのんを寄の歌の歌云侍と法法
しるる詞ともるれてこれよりて祇法を
を松りひとうの人しの今武法のくよ松ん風
りくう風の寄おまれ共あまとあれとうふい
去りすの乃はちのこれのるれて人とこれ
あ〳〵法ろよいしあさあら世よつ〳〵ん
乃ありてしすあ〳〵祝も松人法ね

てをのまゝやとして年をさゝをくもゝ

丙申睦月初五日重校合之　季吟

同五月十四日謹写之　門弟元隣

延寶元癸丑年仲冬吉日

寺町二条上ル町

開板